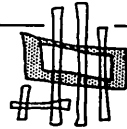
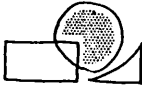


英国の看護教育・助産学教育変革の中での

助産婦教育の位置づけとその周辺



東京都立医療技術短期大学看護学科 教授 松本八重子

平成4年度、勤務先で海外研究の機会を与えられ、7月から9月までの2か月間英国および米国の看護教育プログラムにおける母性看護学と、助産婦教育との関連について調査することができたので、その中から表題にあげた部分に焦点を当てて述べて見よう。

通年して授業と実習を担当しているため、夏期休業を充てたことから夏期は訪問先の大学も休暇中というハンデキャップは十分予測していたが、受け入れ先のご好意で予期以上の内容を得ることができた。しかし、教育の場面との接触は9月に入って授業の始まった米国の大学と、希望実習中の2人の学生の実習場2か所のみで終わった。

前半期を過ごした英国では、EC(ヨーロッパ協同体)加盟による各種専門職免許の城内通用の新事態下、わが国の旧制大学並に狭き門であった高等教育を、高卒者の3分の2まで普及させるべく国の方針が転換され、従来極く一部でしか行なわれていなかった看護の大学教育が大車輪で推進されている最中であつた。従来主としてナショナルヘルスサービスの下にあった看護・助産等の教育機関は、地元の大学や大学に移行した旧制専門学校と提携して、大学の課程に大変容を遂げつつあつた。看護界としては、高等教育の普及のなかで大学化しなければ、高卒者の下位3分の1から人材を得なければならなくなるので、これらの変革に踏み切ったとのことであつた。状況はわが国とよく似ており、教員の確保が最大の課題である。英本国、米、加等の大学

で学位を得た者の採用、研究の振興とそれを授ける文献サービス機関の活動等に力が入られている。

高等教育化とはば時を同じくして看護教育制度の統合変革を行なわれ、いわゆるプロジェクト2,000という西暦2,000年を目指した改革がなされたのである。少し乱暴な括り方をすれば、病人の看護に終始していた看護教育が健康の理解からスタートするようになった。このことで一部の看護教育担当者は、従来助産婦教育で強調されてきた健康人のケアは看護婦教育に包含された、助産婦教育は看護婦教育の一分野たり得ると言い始めており、どこの国にも自分のスケールのみで隣接する専門職種を測る手合が存在することを痛感した。

このプロジェクトのもう一つの特徴は伝統的に極めて少ない接点しか持たなかった4種類の看護婦の教育の前半の1年半を共通の課程(CFP:共通基礎課程)とし、その後成人看護婦、小児看護婦、精神科看護婦、精神遅滞児看護婦の4分野に進むようにしたことである。

一方助産婦教育は従来看護婦教育の後に1年半行なうか、高卒後直接入学する課程があり、後者は今回の改革前には1か所に減っていたという。

プロジェクト2,000が検討され始めたとき、助産婦教育を前記の4種類の看護婦の教育と並ぶ第5のプランチとして位置づけることが提案されていたが、助産婦界挙げての反対、

データの提示等もあり(雑誌Nursing Times等にしばしば掲載されていたのでご存じの方も多いと思う)実現しなかった。

後で引用する理由により、助産婦教育は看護婦教育修了後1年半または高校卒業後3年以上の直接助産婦となるコースの2種類に落ち着いた。

助産が看護の第5のブランチとはされない理由を、この制度改革に取り組んだ連合王国中央看護婦、助産婦、保健訪問婦(ヘルスピジター:わが国の保健婦に近いが専ら家庭訪問によって地域の保健問題に取り組んでいる)審議会はその報告書に次のように述べている。

「この結論に達する前に、助産婦は看護婦とは異なる専門職であり、かつ看護に補足して完全になる専門職であるということを認められた」

「助産婦の役割は看護婦のそれとは実質的に異なるものと言えよう。この意味は看護婦とはレベルの異なった種類の決断を下すことで助産婦の専門的自立性が高いということである。助産婦は産科医に極めて近いレベルでの母子に関する診断技術を有することが期待されており、そのある部分は産科医とオーバーラップさえる。助産婦はまた、一定の範囲内で処方をし、病院への妊産婦、新生児の委託・転送や、退院を決定する権限を持っている。これらのすべて、それに手先の器用さと前述のような機能を発揮する自信を持つ必要性から、助産婦になるための特別な看護婦とは異なる教育をしなければならないことが示される」

看護婦教育を経ずに直接助産婦となるコースについては、次のように述べている。

「我々は、直接助産婦となるコースが可成りの支持を得ていることを承知している。応募と助産婦職に止まる者の増加、経済性、そして直接入学制がより献身的な労働力を生み出し、幅のある年齢層の女性を魅きつけ、クライアントの多様性により良く対応しているのである。共通基礎課程経由のコースは直接助産婦課程に入学しようとする人々の探している幅広い魅力的な内容を提供し、いくつかの欠点を除外できると考えている。(後略)」

事実、直接助産婦になる課程は可成り人気があって、1992年夏現在で24課程があり、

意欲的な助産婦を送り出しているようである。ICMの神戸大会に来日し、「何も手を出さないほうが結果はよい」という演題で参加者の共感を呼んだNicky Leapさんもソーシャルワーカーとして活動しているうちに性教育の必要に迫られ、それが直接入学の助産婦学校への動機につながったとのことである。ある程度年を取ってから助産婦になりたい人にとって、なるべく短期間で修業できるコースがあると有り難いと言われて、成熟した人を必要としている助産婦の教育では、多めに考慮すべき問題であるということ強く認識した。

この助産婦教育課程への直接入学に関するイングランド政府の委員会の調査は、神戸ICM大会で会計担当理事となったAnn Thompsonさんがもう一人の助産婦と共に手掛けられ、この結果も影響してこの課程の数は急激に伸びたと考えられている。

日本からも2人の留学生が学んでいるオックスフォードの大学教育を、ジョン・ラドクリフ病院に訪ねることができた。オックスフォード在住のシーラ・キッチンジャーさんの勤めもあって、地域ぐるみで妊娠から分娩、産褥、新生児期に至る一連の期間一貫して受け持ち、ケアするシステムをある地域から徐々に拡大の方向で進めた時、この統合的役割りを担うべき助産婦としては、これまでの教育は不十分であることに気付き、同じように考えていた看護教育担当者と共に求める看護婦、助産婦に必要な教育を組み立てていったところ4年ということになったとのことである。英国の大学は一般に修業年限3年で大学では一般教育よりも専門教育中心であることがここでは敢えて修業年限を4年としている。

英国の看護婦および助産婦の教育はヨーロッパ協同体の基準に依っているのは言うまでもない。ヨーロッパ協同体の助産婦教育課程で必修の臨床経験の基準は下記の通りである。

1. 妊婦の健康診査と保健上の助言: 100件以上。
2. 分娩中の産婦の管理とケア: 40件以上。
3. 学生自身による分娩介助: 40件以上。
4. 骨盤位分娩への積極的参加(骨盤位分娩の件数が少なく経験できない場合シュミレーションでもよい)。

5. 会陰切開と縫合の手ほどき。この手ほどきは理論的指導と臨床的実習とを含む。縫合の実習には会陰切開と単純な会陰裂傷の創の縫合を含む。この実習は必要な場合シミュレーションでもよい。
 6. 妊娠中または分娩、産褥期間中のリスクを伴った女性の管理とケア：40件。
 7. 褥婦と新生児の健康診査と管理およびケア：100件。
 8. 未熟産・過期産・低出生体重・病気をを含む特別なケアの必要な新生児の観察とケア。
 9. 産婦人科領域の疾患にかかっている女性のケア。
 10. 内科、外科領域のケア入門、理論的指導および実習を含む。
- 今回はニュースレターという紙面の性格もあって頭書のテーマとその周辺に絞って述べた。興味ある資料も種々入手して来る事ができたので、機会を得てご紹介したい。

ICMからのお知らせ

1. 新しい季刊誌の紹介

1993年1月より「国際障害、妊娠、親業」雑誌が発刊されました。本誌購入の希望の方は、巻末を参照の上注文下さいますようご案内致します。

Disability, Pregnancy & Parenthood International

A forum for professionals and parents to exchange information and experience

Disability, Pregnancy & Parenthood International is aimed at everyone interested in promoting better awareness and support of disabled people in pregnancy and parenthood. In particular:

○ health and social work professionals such as doctors, midwives, health visitors, occupational therapists, physiotherapists, social workers, parentcraft teachers, rehabilitation workers.

○ disabled people who are already parents

○ organisations concerned with disability and/or pregnancy and parenthood

Goals By bringing news of professional good practice and pioneering projects, of useful new research, of books and audiovisual material, and the expertise and experience of veteran disabled parents themselves, DPPI will:

○ Raise awareness of the concerns of disabled parents

○ Draw attention to relevant sources of information

○ Build bridges between disabled people and professionals

○ Promote networking amongst different groups of professionals

○ Promote contact between different parent support groups

Edited by Mukti Jain Campion, a mother of two young children, author of the best-selling handbook on pregnancy and disability "*The Baby Challenge*" (Routledge, 1990) and director of the widely praised video "*Isobel's Baby*" (Arrowhead Productions, 1989). She is an active member of the UK network ParentAbility and of the Maternity Alliance's Disability Working Group which campaigns for better recognition of the rights and needs of all pregnant women and new parents.

Let's hear from you We want to hear from you whether you are a professional or a parent (and especially if you are both). Write, or if you prefer, send a tape - we welcome articles (upto 1500 words), letters, book reviews & cartoons. Please send any material you wish to be considered for publication to:

The Editor, Disability, Pregnancy & Parenthood International
51 Thames Village, London W4 3UF England

Fax no. +44 81 998 6348

Any original article accepted for publication earns a free year's subscription to DPPI

Subscription Details

Disability, Pregnancy & Parenthood International is published quarterly.

Annual subscription: Sterling £20-00 (UK) £25-00 (outside UK)

To subscribe please send your name and full mailing address with payment (cheques payable Arrowhead Publications) to:

Arrowhead Publications

51 Thames Village

London W4 3UF

England

(Please specify if you would prefer to receive DPPI on audiocassettes)

© 1993 Arrowhead Publications. No material may be reproduced without prior written agreement from The Editor.

あなたの実践や研究を誌上発表してみませんか！

日本助産学会編集委員会

学会誌第7巻1号(平成5年12月発行予定)の編集を企画しています。会員の皆様からの投稿をころからお待ちしております。学会誌に掲載されることは、業績として高く評価されます。あなたの貴重な成果を埋もれさせないことを願っています。投稿要領は次の通りです。

1. 投稿を期待している論文の種類

- ① 原著
- ② 資料
- ③ 報告

2. 投稿期限 平成5年7月31日(土)必着

3. 投稿先 〒102 東京都千代田区富士見1-8-21

日本助産学会事務局あて ☎ 03-3221-1021

FAX 03-3221-0471

4. その他 既刊学会誌は1冊2,200円で販売致しております。日本助産学会事務局にお問い合わせ下さい。

ICMスポンサーミッドワイフ(国際基金)募金について

標記の件につきましては、本学会ニュースレター№8(1992年10月22日)で基金をお願い致し、1月25日現在で、右記の64名の方々より251,000円の基金をお寄せ頂きまして、厚く御礼申し上げます。しかし、一人当りの予算4,000カナダ\$ (約408,000円)にはまだ不足しておりますので、何口でも結構ですので、会員の皆様からの基金をお待ち致しております(2月末頃までに)。

口座番号：東京 9-710931 日本助産学会国際基金 1口 1,000円

▼基金をお寄せ下さった方々

| | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|
| 岡本喜代子 | 峰岸まや子 | 西原 美紀 | 兵頭 慶子 | 野瀬ヨシイ |
| 浅田維久子 | 宇部 康子 | 山下 浩子 | 村山 郁子 | 松田 尚子 |
| 入江美美子 | 中田 映子 | 山崎さゆり | 後藤 幸子 | 半井 礼子 |
| 小田切房子 | 月僧 厚子 | 平澤美恵子 | 石川 晴美 | 加藤 波子 |
| 加賀 智美 | 森 明子 | 廣崎 こま | 長鶴美佐子 | 白木はるみ |
| 山西みな子 | 大竹 幸江 | 杵渕恵美子 | 若林 初美 | 河兒 真実 |
| 村上 睦子 | 大久保由賀里 | 松谷 涼子 | 幅下 貞美 | 田中美知子 |
| 黒木美耶子 | 木内八重子 | 山本 貞子 | 橋戸奈津子 | 安倍 本子 |
| 高田 峰子 | 喜多 祐子 | 笹崎フミ子 | 小木曾みよ子 | 白井 敦子 |
| 熊倉八代枝 | 松村千鶴子 | 小野嘉久子 | 佐藤 ヨシ | 岩澤 和子 |
| 加納 尚美 | 大原 明子 | 瀬井 房子 | 官崎 豊子 | 近藤 潤子 |
| 松本八重子 | 青木 康子 | 官里 和子 | 浅生 慶子 | 三井 政子 |
| 竹内美恵子 | 伊藤 隆子 | 佐々木敦子 | | |

聖隷学園浜松衛生短期大学専攻科助産学特別専攻一同 (順不同)

第7回日本助産学会 学術集会開催のご案内

第7回日本助産学会学術集会を、メインテーマ「人間性の原点とかわる助産婦」のもとに下記の通り開催いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会長 浅生 慶子

1. 期 日 1993年3月7日(日) 9:30~16:30
2. 会 場 九州厚生年金会館 (北九州市小倉北区大手町12-3)
3. プログラム
 - * 会長講演 「助産婦の行う性教育」 10:00~10:40
 演 者 浅生 慶子 九州大学医療技術短期大学部
 座 長 藤 田 八千代 神奈川県立衛生短期大学
 - * 一般演題：口演、示説（ビデオセッション） 10:45~14:20
 (日本助産学会総会 12:30~13:25)
 - * シンポジウム 「助産と人間形成」 14:30~16:30
 座 長 竹 内 美恵子 徳島大学医療技術短期大学部専攻科
 緒 方 妙 子 聖マリア学院短期大学専攻科
 演 者 三 浦 清一郎 学校法人福原学園
 九州共立大学・九州女子大学副学長
 波 平 恵美子 九州芸術工科大学教授
 賀 久 は つ むなかた助産院院長
 宮 崎 正 夫 コスモサービス代表取締役社長
 篠 田 恵 美 エフコープ生協職員

| | 9:00 | 9:40~9:50 | 10:00 | 10:40 | 11:40 | 12:30 | 13:25 | 14:20 | 16:30 |
|---------------|-------|-----------|----------|-------|-------|-------|-------|--------|--------------------|
| 第1会場 年金ホール | 開場 | 会長挨拶 | 会長講演 | 一般口演 | 昼食 | 総会 | 一般口演 | シンポジウム | 閉 会 |
| 第2会場 | | | | 一般口演 | | | 一般口演 | | |
| 第3会場 | | | ビデオセッション | | | | | | |
| 第4会場 | 展 示 場 | | | | | | | | |

(終了後、厚生年金会館において懇親会をいたします。17:00~19:00)
 <於 日本海の間>

4. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について

1) 参加費

学術集会参加費は7,000円 (1993年1月20日以降は8,000円)

懇親会参加費は6,000円

2) 学術集会参加・懇親会参加申し込み方法

参加を希望される方は、参加費を下記に振り込んでください。

会員以外の方のお申し込みも歓迎いたします。

郵便振替用紙は、1人で1枚を使用して申し込んでください。もし1枚で2人以上の申し込みをされますと、事務局で参加者の確認ができなくなります。

なお、年会費の振込先は別です。(日本助産学会事務局) お間違いないようお願いいたします。

学術集会参加費・懇親会費・昼食代振込先

郵便振替口座 福岡6-80938

口座名称 第7回日本助産学会学術集会

参加申し込みをされた方には、学会時の討議を円滑にするために「講演集」を事前を送付する予定です。2月20日以降に振込をされた方は、振込の確認ができないことがありますので、振込票を必ずご持参ください。

3) 昼食申し込み

昼食用弁当をご希望の方は、あらかじめ学会参加費と同時に申し込んでください。一食 1,200円、昼食券は事前にお渡ししますので、当日その昼食券と弁当をお引き換えください。

5. その他

1) 第7回日本助産学会学術集会事務局

〒812 福岡市東区馬出三丁目1番1号

九州大学医療技術短期大学部専攻科

電話 092-641-1151 (内線 7300, 7301)





第7回日本助産学会 プレコングレス・ミーティング
「よりよい娩出期のケア」

主催：よいお産を考える会
お産の学校
代表：堀内成子（聖路加看護大学）
杉山次子（お産の学校）

社会全体が環境保護を認識し始め、生活を再考し、物質的豊かさのみならず、クオリティオブライフを追求する動きの中で、助産婦はいかなるビジョンをもった活動をする事が望まれているのでしょうか。

九州小倉での第7回日本助産学会の前夜に、プレコングレス・ミーティングを企画いたしました。「よりよい娩出期*のケア」をメインテーマとして、二人の話題提供者からケアの実践報告をしていただき、その後参加者ひとりひとりから発言していただけるよう、グループでのフリートーキングを持ちたいと思います。なごやかな雰囲気の中で、しかし白熱した討議を交わして学会の前夜に積極的な交流をしようではありませんか。たくさんの方々参加をお待ち申し上げます。
(*ここでいう娩出期とは、子宮口全開大以後、児娩出までを指す)

と き：1993年3月6日(土)

場 所：北九州市立商工貿易会館(地図参照)

プログラム：午後6時より9時まで

| | |
|-------|--|
| 6時 | 開 会 |
| 6時10分 | 話題提供 「よりよい娩出期のケア」 潮井房子(ベビーヘルシー美薔) 服部紀子(エンゼル・マタニティークリニック) |
| 6時45分 | グループでのフリートーキング |
| 8時30分 | 発 表 |
| 9時 | 閉 会 |

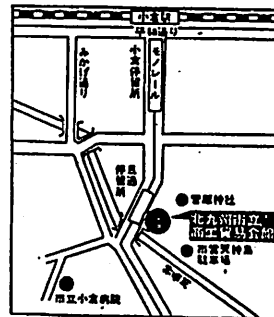
申し込み方法：3000円(資料代、軽食代金を含む)を下記へお振込ください。
振込用紙の控は当日資料と引き換えますので必ずご持参ください。
振込先 東京9-710541 「よいお産を考える会」

申し込み締切 定員になり次第締め切りますので申し込みはお問い合わせの上、申し込んで下さい。

問い合わせ先：FAXかハガキでお問い合わせください。後日お返事いたします。
〒104 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学 母性看護学研究室 内藤和子宛
FAX：03-5565-1626

会場までの道のり

小倉駅 南口下車
徒歩 10分
バス
三萩野経由のバスすべて
紺屋町下車徒歩1分



〒802 北九州市小倉北区古船場町1番35号
TEL (093) 541-2184

北九州市立商工貿易会館



—— 第7回日本助産学会総会開催のお知らせ ——

会員各位

第7回日本助産学会総会を下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近藤潤子

記

1. 日 時 1993年3月7日(日) 12時30分～13時25分
 2. 会 場 九州厚生年金会館年金グラウンドホール(第一会場)
北九州市小倉区大手町12-3
 3. プログラム 1) 平成4年度活動報告・収支決算報告
2) 平成5年度事業計画・収支予算案審議
- *当日は会員証を携行し、受け付けに提示して総会要綱を受け取り総会に臨んで下さい。尚、会員には事前に参加券をお送り致し、総会前に参加券を確認します。
- *当日受付に学会本部のコーナーを設けて平成5年度会費の受け付け、入会案内の配布等を行います。ご利用下さい。

—— 第7回新・現評議員会開催のお知らせ ——

評議員各位

第7回評議員会を下記のように開催いたしますので、多事多端の折りではありますが、ご出席のためのお繰り合わせを宜しくお願いいたします。

日本助産学会 理事長 近藤潤子

記

1. 日 時 1993年3月6日(土)
新評議員会 16時30分～17時30分
現評議員会 17時30分～20時
2. 会 場 九州厚生年金会館(周防の間)
3. プログラム 新評議員会
1) 次期役員選出・その他
現評議員会
1) 平成4年度活動報告・収支決算報告
2) 平成5年度事業計画・収支予算案審議
3) 第9回日本助産学会学術集會会長選出

----- 事務局だより -----

*立春も過ぎて春の息吹を感じる頃となりました。第7回日本助産学会の期日が近づいてきております。暖かい九州の春を求めながら、助産学の向上にむけて相互に研鑽してまいりましょう。多勢の皆様のご参加をお待ち致しております。

*平成5年度の国際助産婦の日に向けての標

語を募集しております。日本の助産婦活動をアピールするような標語を是非事務局までお寄せ下さい。

